

舞台芸術の

未来をのぞむ

連続講座

2023

持続可能な
創造環境に向けて

対象 舞台芸術をはじめ芸術、文化活動・事業に携わっている方。
本講座で学びたい方、興味のある方はどなたでも。

受講料 全講座(6回) | 一般:4,000円 学生またはON-PAM会員:2,500円
※2023年12月31日(日)23:59までにお申し込み頂いた場合のセット料金です。

—
各回 | 一般:800円 学生・ON-PAM会員:500円

実施方法 オンライン(Zoomウェビナー)
※UDトークによる日本語字幕配信を行います。
※資料を画面共有する場合がございます。タブレットやPCなど文字の読みやすいデバイスをお使いください。

**アーカイブ
動画視聴** 本講座にお申し込み頂いた方は、リアルタイムでの受講だけでなく、
アーカイブ動画をご視聴頂けます。
視聴期間 | 各講座終了の数日後～2024年3月29日(金) 23:59
※講座の内容は基本的にリアルタイム受講に合わせています。
できるだけ当日に「ライブで」ご参加ください。

**お申込み
方法** Peatixからお申込みください。
<https://onpam-renzokukouza2023.peatix.com>



**お申込み
締切** リアルタイム受講 | 各講座の前日 23:59
※ただし、全講座(6回)セットのお申込みは2023年12月31日(日)23:59です。
締切までにお申し込み頂いた方に、リアルタイム受講用のZoomアドレスをお送りします。
締切後にお申し込み頂いた方には、後日アーカイブ動画視聴のためのURLをお送りします。
アーカイブ動画視聴 | 2024年3月22日(金) 23:59

お問合せ 特定非営利活動法人舞台芸術制作者オープンネットワーク(ON-PAM)
info@onpam.net

主催 | 特定非営利活動法人舞台芸術制作者オープンネットワーク(ON-PAM)
<http://onpam.net/>

助成 | 公益財団法人セゾン文化財団
公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京



舞台芸術制作者オープンネットワーク(ON-PAM)は、アーティスト・芸術団体と観客の間を繋ぐ仕事に携わる人たちの全国的・国際的な会員制ネットワークです。舞台芸術を推進する者が主体的に参加し、各々の仕事を通じて日々更新される情報やアイデアを交換、共有し、活動の展開につなげる場を形成します。そして、同時代の舞台芸術の社会的役割の定義・認知普及、文化政策などへの提案・提言を行い、舞台芸術及び社会全体の利益の増進に寄与することを目的としています。

ON-PAMでは会員を募集しています。
興味のある方は、ウェブサイトの入会案内をご覧ください。
<http://onpam.net/>



舞台芸術の

未来

をのぞむ

連続講座

2023

～持続可能な
創造環境に向けて

第1回 | 老いと舞台表現

第2回 | 舞台芸術と遊び

第3回 | ベイビーシアター

第4回 | 脳科学から見た演劇

第5回 | アーカイブ～その創造性と未来志向

第6回 | 舞台芸術の公共性と公共圏

全6回

2023年10月23日[月] → 2024年3月12日[火]



2021年の「契約にまつわる」連続講座、2022年の「関係性をめぐる」連続講座では、
コロナ禍を契機として舞台芸術の創造環境における課題を可視化し、改善をはかる一助となりました。

2023年はシリーズの最終章として、私たち自身の身体・心理等の視点から、
より長期的かつ前向きに人と舞台芸術のあり方を見つめ直します。

舞台芸術の特性と可能性を引き出し、新たな発想、思考および
活動の起点や拠り所を探る、全6回のオンライン講座です。

各回終了後、
参加自由のおしゃべり会を
30分ほど行う予定です。

第1回

老いと舞台表現

2023年
10月23日 [月]
19:00-21:30

以前より日本では、高齢者が舞台に立つことは特別ではありませんでした。時にネガティブな印象を持たれていた「老い」が、人口の1/4が高齢者という社会で当たり前のことになっています。思想や感情などを表すこと、また、それが形として表れる「表現」に年齢は関係なく、一生を通じたものであり、そのらしさ=個性に強く結びついています。老いてからの自由にも焦点を当て、演劇と舞踊それぞれから社会と舞台芸術における「老い」をポジティブに、豊かなものとしてとらえてみます。

講師



撮影：星加和輝

菅原直樹

「老いと演劇」
OiBokkeShi 主宰



©TAFUN

中島那奈子

ダンス研究者
ダンスドラマツルク

第2回

舞台芸術と遊び

2023年
11月20日 [月]
19:00-21:30

日本にまだ「芸術」という言葉のなかったころ、平安時代に使われていたのは「あそび」という言葉でした。その典型である「遊宴」は、日常とは別の世界で、他人と共に世界と自己とを体験するための仕掛けと考えられます。なぜ「遊び」は芸術から切り離されてしまったのでしょうか。そもそも「遊び」が持っている意義とは？ 世代や時代を超えて、創造の源ともいえる遊びと舞台芸術の関係を解き明かしていきます。

講師



尼ヶ崎彬

学習院女子大学名誉教授

スピーカー



©Yuta Itagaki / Mana Hiraki

額田大志

作曲家・演出家
ストミック、東京塩麴 主宰

第3回

ベイビーシアター

2023年
12月18日 [月]
19:00-21:30

赤ちゃんと共に大人が参加する体験型演劇。様々な事例について発達心理学、脳科学、保育・教育学等を切り口として概説しながら、社会的存在として赤ちゃんに向き合うことが、いかに大切であるかを学びます。「自由」な赤ちゃんが無意識に全身で世界を感じ取り、感情や欲求を表すことは、至高のダンスあるいは演劇的な行為であるかのようです。その限らない好奇心や遊び心は創作及び鑑賞の出发点であり、舞台芸術との関連性についても理解を深めます。

講師



浅野泰昌

倉敷市立短期大学准教授
一般社団法人
日本ベイビーシアターネットワーク理事

スピーカー



撮影：haruhiro sako

弓井茉那

BEBERICA theatre company 代表
演出・プロデューサー
一般社団法人
日本ベイビーシアターネットワーク理事

第4回

脳科学から見た演劇

2024年
1月15日 [月]
19:00-21:30

他者を演じるとき、脳内では何が起きているのでしょうか。近年、脳科学が発達し、脳の働きが詳しくわかるようになってきました。再生される「感情」のアーカイブとしても興味深く、脳の機能を知ると、演技へのアプローチや表現が変わってくるかもしれません。ミラーニューロン、シーン構築、デフォルトモード・ネットワークなど脳科学の領域から演劇について掘り下げ、両者の親和性をたどりつつ、人間の創造性や革新性に迫ります。

講師



田中昌司

上智大学名誉教授
工学博士
日本声楽発声学会理事

スピーカー



撮影：松本和幸

横山義志

ドラマツルク
舞台芸術研究

第5回

アーカイブ ~その創造性と未来志向

2024年
2月13日 [火]
19:00-21:30

圧倒的なエネルギーを持ちながらその時かぎり消えてゆくライブパフォーマンスと、その膨大な情報を製作段階を含め最大限固定化し活用することのできるアーカイブ。それぞれの特徴を踏まえながら、新たに生み出される価値、発展的な関係について考えます。記憶が呼び覚まされ、感情が呼び起こされるプロセスにおいて、これまでになく創造性や発信性が見出されることでしょう。演劇的な虚構性をはらんでいることにも着目します。

講師



吉見俊哉

國學院大学教授
東京大学名誉教授

スピーカー



松延耕資

作曲家
演奏家(紙カンパニーproject)

第6回

舞台芸術の 公共性と公共圏

2024年
3月12日 [火]
19:00-21:30

演劇そして舞台芸術が持ち得ている公共性は、その力を発揮していると言えるでしょうか。私的／公的な領域の変化と「公共」に関する主要な言説に触れながら、「公」「官」だけでなく「私」「民」が持つ力の重要性について確認し、必要と思われる「公共」のありようを再認識します。これまでの連続講座での「権利編」(表現の自由など)、「文化権と法律編」に続き、舞台芸術の本質と社会的な意義を追求します。

講師



内野儀

学習院女子大学教授

スピーカー



撮影：萩原潔太郎

萩原雄太

演出家
かめマシーン 主宰